2024. 7 .17 ～ 25

CFNJ Thailand MaeSot Outreach Report ！

# CFNJ タイ メーソート アウトリーチレポート！

# 目次

「全世界に出ていき」 鍛冶川利文（学院長） （2P）～（3P）

「5年ぶりのアウトリーチ」 鍛冶川紀子（副学院長） （4P）～（5P）

「ビジョン回復の旅」 伊藤 仁（宣教師） （6P）

「出ていくと神様が働く」 北坂信頼（アルプス生） （7P）

「世界が広がった」 ロケ・ジョシュ・アキラ（アルプス生）（8P）～（9P）

「私の助けは主から来る」 岩村 一義（1年生） （9P）～（10P）

「初めてのアウトリーチ」 中澤 美樹（1年生） （11P）～（12P）

「神の御手の中で」 タヒラ・デボラ（1年生） （12P）～（13P）

「神の愛あふれるタイの旅」 宮内 仰（1年生） （14P）

「実を結ぶ地」 木藤 穣（1年生） （15P）

「タイアウトリーチ全行程」 （16P）～（20P）

「photo」 （21P）

「祈りの課題」 （22P）

# 「全世界に出て行き！」

マルコ１６章１５節

学院長　鍛冶川利文

■ようやくコロナ禍も治まり、５年ぶりの学院の海外アウトリーチを無事に終えることが出来ました。先ずはこのアウトリーチの必要の為に、お祈りやご支援をしてくださったすべての皆様に、心からの感謝とお礼を申し上げたいと思います。皆様のご支援を頂き、「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ１６章１５節）との主からのご命令を果たすことが出来ました。全ての感謝と賛美を主にお捧げします！

今回、７月１７日から２５日迄の９日間の日程で、タイ北部にある「メーソート」という町に行きました。この町はミャンマーとの国境近くにあり、資料によると人口は約１０万人程だそうです。しかし実際には、その何倍もの数のミャンマーからの人々が、内戦や迫害、又、貧困などの理由で逃れて暮らしています。その数は何と２０万人から３０万人にのぼり、今も増え続けているという事です。

そのメーソートに、私たちは「伊藤仁宣教師」の紹介で訪問させて頂きました。その訪れた場所は、韓国からの宣教師や教会の支援によって設立された幾つかの教会。（その中には開拓中の教会もありました。）それと、神学校。そしてミャンマーから逃げてきた子供たちを受け入れている難民学校でした。９日間の内、往復の行き来をのぞくと、実質は５日間の滞在でしたが、合計、７ヵ所の場所を訪問することが出来ました。

イエス様が大宣教命令の中で、先ずは「出て行って。」と仰られた意味はとても大きいと思います。わずか５日間の滞在でしたが、「出て行き」、はじめて「見える事」。「感じる事」。そして「分かる事」があるからです。先ず、「見える」事は、その「大変な状況」です。日本とはあまりにも違う状況に驚きました。ミャンマーの内戦から、何も持たず逃れてきた多くの人たちが、とても貧しく過酷な状況の中で暮らしていました。それらの人々は、異国の地で、何の身分の保証もなく、毎日を不安な思いで生活をしなければならないのです。すぐ目の前の山の向こうは、祖国ミャンマーです。ですから逃れて住んでる人々は、毎日、その山を、どんな思いで見ているのだろうと考えると、とてもつらい気持ちになりました。現地の牧師からは、「その場所では写真を撮らないように。」と言われました。それは自分たちの貧しい姿を人に知られたくないからだそうです。そんなつらい現実を見ました。

次に、「感じる事」は、「神の御業の働き」です。確かにそのような大変な状況ですけれど、神様は力強く働いておられました。神学校には多くの学生が学び、教会には沢山の信徒が集っていました。又、難民学校には子供たちが溢れていて、ある教会が経営している学校には、約３００人位の子供たちが聖書を学び、御言葉に従って勉強しているのです。

しかも、その数が、毎月のように増え続けているそうです。勿論、その学校を維持することは、とても大変なご苦労もある事もお聞きしましたが、しかし、神様が、不思議な方法で全てを満たして下さっておられることにも驚かされました。そこの多くの子供達を指導し教えているのは、献身した神学校の卒業生だそうです。そこでは神様の素晴らしい御業を感じることが出来ました。福音だけが人を造りかえることが出来る。人を満たすことが出来る。それが見て感じた実感でした！

そして、最後に、「分かった事」は、とにかく、「出て行く」ことです。実際に滞在期間はわずかですから、私たちはわずかな事しか出来なかったと思います。しかしそれでも主は出て行くことを願っておられると思いました。今回のアウトリーチの計画を立てた時に、その旅費に一人分が２０万円が必要でした。しかし当初はそれがありませんでした。ぜんぜん足りませんでした。又、他にもいくつかの困難な状況もありました。しかし、とにかく主は必ず満たして下さると信じ祈り始めました。すると出発直前までに全ての費用が備えられました！それも充分に！いや！それ以上に満たされました！ハレルヤ！その中から現地の教会や施設の必要の為に僅かですが捧げることも出来ました！これまでのアウトリーチもそうでしたが、とにかく「出ていく」事は、主が喜んでおられ、御心である事が分かりました。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ１６章１５節）このご命令の通り、出て行き、そして、見て、感じて、福音を伝えるものでありたいと思います。

あらためまして、今回のアウトリーチの為にご支援下さった皆様に心からの感謝を申し上げます。又、現地において私たちチームを受け入れて下さり、お世話して下さった先生方、特に、メーソートの教会の「サイン・ドゥ先生ご夫妻」には心からの感謝を申し上げます。そして、全ての旅の行程を守り、導いて下さった神様に、感謝と賛美をお捧げします！ハレルヤ！

# 「5年ぶりのアウトリーチ！」

副学院長　鍛治川　紀子

CFNJ として５年ぶりに海外アウトリーチに行くことを決めた時、私は参加するつもりは全くありませんでした。８３歳と言う高齢で、昨年大腸癌の手術をしたばかりでもあり、体力も弱っているだろうから、海外アウトリーチは無理と思っていたのです。しかしそんな私に主は語られました。「あなたを愛し、癒し、今も命を与え、生かしている。その目的は、あなたがただ家で猫とのんびり留守番をするためではなく、出て行って、わたしの恵みを証するためではないのか」と。

そうです。私は今も生かされているのです。術後１年経ってちょうどそのアウトリーチ期間中に様々な検査の予定が入ってはいたものの、思いが一瞬のうちに変えられて、検査はアウトリーチ後に延ばせばいいんだ。そんな思いになりました。参加すると決めた途端、私の心に大きな喜びが溢れてきました。さっそくパスポートを準備し、学生たちと共に祈りながらミャンマー語の賛美を覚えたり、様々なミニストリーの準備をし始めました。期限までに１０名全員の参加費も主が備えてくださり、１７日早朝、チーム１０名は、揃って千歳空港から、タイのメーソートに向かって出発しました。主の栄光とその奇しいわざを宣べ伝えるために。

「主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいわざを、すべての国々の民の中で。」詩篇９６篇３節

タイのメーソートには、ミャンマーから逃れてきた家族やたくさんの子どもたちがいました。１ 人の牧師が、今から ９ 年前に、彼らに主を礼拝する場所を与えてあげたいとの思いで始めた開拓教会が、今では８箇所に広がっていました。中心となるメーソートグレース教会の働きにより、四年生の神学校も運営されており、そこでは５０名以上の熱心な若い献身者が学びながら、多くの場所で主と子どもたちの為に喜んで仕えていました。

日本の教会のように、日曜日だけ子供達を

集めて CS をやるという形ではなく、各教会に寮を作り、クリスチャンの子供も未信者の子供も共に住み、食事も衣服も与えられ、聖書的な全人格的教育が施されていました。あるところでは、３００人以上の子どもたちが共に暮らしていました。それらの子供達を養い育てるためのニーズと愛の労力は半端ないものと容易に想像できました。私たちチームはわずかな日数、彼らを訪問して、できる限りの愛の奉仕をさせてはもらいましたが、現地の牧師、リーダー、神学生の献身的に働く姿を見て、感動を覚えると共に、多くの点で

見習わなくてはならないなと思わされました。しかし、我が CFNJ チームは、海外アウトリーチは、初めてという学生も多い中ベストを尽くし、本当によく頑張りました。ミャンマー語で賛美し、証やメッセージをし、スキットを演じ、子供達を祈りとギフトで祝福しました。誰 1 人不平や不満を口にする者はなく、毎朝のデボーションでは、感謝の言葉が多く聞かれました。そんな彼らを誇りに思います。

今回のアウトリーチをはじめから終わりまで導いてくださった主に感謝すると共に、このために祈り捧げ、見守り続けてくださった、とりなし手の皆様にも心から感謝いたします。そして現地で私たちのお世話をし、仕えてくださった愛するメーソートの方々に心から感謝いたします。

チェーズーテインバーデー！

全ての栄光を、主イエスの御名にお捧げします！

# 「ビジョン回復の旅」

伊藤 仁 宣教師

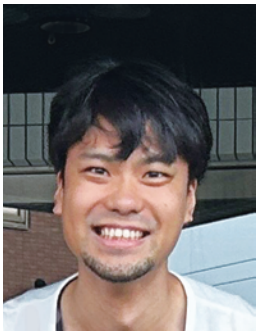
「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は力強い。」（哀歌 ３章２２節～２３節）

今回のアウトリーチは私にとって「ビジョン回復の旅」でした。２０２０年、コロナのためにミャンマー宣教が突然中断されて、日本に帰りました。いつまで待ってもミャンマーに戻れない。将来が全く見えない。そんな中で、私は宣教のビジョンを失い、霊的な暗闇を歩いているような感じでした。しかし今回のアウトリーチで、ミャンマーの人たちに会って伝道するうちに、私の奥底に眠っていた宣教スピリットが、少しずつよみがえって来ました。「君は愛されるため生まれた」をミャンマー語で歌いながら、未信者の子どもたち一人一人の目を見つめているうちに、私の目から涙があふれて来ました。失われたたましいを愛する神様の心が、私を通して流れて行ったのです。この歌は、私たち一家がミャンマー宣教を始めた頃に、いつも歌っていた曲でした。その当時の出来事、ミャンマーの人々を愛する心、救霊の情熱が思い出されました。私は心の中で言いました。「これが私の国、私の民、やっぱり私は宣教師なんだ！」

聖書学院チーム一人一人の証やメッセージを通訳するときに、その内容を聞いて私自身がまず恵まれて、その恵みを増幅して伝えることができました。日本の若者たちが世界で宣教するために、主はこんな私を用いてくださる！そのこと自体が特権であり、この上ない喜びでした。学生たちが「リディーマー」という劇を熱演するのを見るたびに、大きな犠牲をもって私を救い出してくださったイエス様の十字架の愛を思い出し、涙があふれました。また、毎朝チーム全員が集まって分かち合い、共に祈るときに、神の家族としての一体感を感じることができました。メンバーが毎朝私の部屋に来る前に、片づけをしながら、私はこの賛美を歌いました。

「♪ 主の愛はとこしえまで～ その恵みは尽きず　朝ごとに来る新しい　あなたのまことは力強い～♪」　主の恵みは朝ごとに新しい。主は私を回復させてくださった。その主のあわれみを忘れずに、これからも宣教を続けていこう。その決意を新たにしたのです。私は今、この証をミャンマーの地で書いています。主は宣教の門を再び開いてくださいました。私のアウトリーチ、聖霊行伝は、今も進行中です！

# 「出ていくと神様が働く！」



学生長　北坂信頼

今回のアウトリーチに対して祈っている時、思わされたのはキリストの体の一部に、キリストの体の一部として遣わされ、会いにいくということでした。行く前にはどうなるだろうという思いもありましたが、行きの航空券のやり取りで相手が海外企業ということもあり、途中色々なことがありながらも奇跡的に全員で無事に現地に辿り着けたことで、神様がこの旅に何か計画を持っておられるということが分かりました。行ってみて教えられたのは現地の教会や神学生たちの姿勢でした。人が多く居て環境が整った教会でも、人が少ししか居らず、建物もなく、良い環境とはとても言えないようなとてつもない田舎の場所でも、彼らは変わらずに神様の愛を届けていました。

僕たちもゲームやスキット、証、メッセージ、祈り、現地の方との関わりなど、自分たちにできることを懸命に取り組み、時には涙を流す人もいるなど、神様が働いてくださったと感じる場面もあったと同時に、現地の方々はこのような関わりや伝道を日常的にしている様子が伝わってきて、続けることの凄みを感じました。（実際に教会や学校に多くの人が増え続けているようでした。）また彼らが喜んでそれをしている様子を見て、素晴らしいと感じましたが、細かく話を聞いてみると、その奉仕している方達も人間的にはかなり大変と言えるような状況の中でそれをしていることがわかりました。ミャンマーの紛争から逃れ、外国で暮らす中で多くの不利な状況や、大変さもある中で、そこに流れる雰囲気は神様から来る喜びや希望でした。また私たちのために祈って欲しいと伝えてくださる言葉からは、真剣さと切実さを感じました。
中心となる教会の牧師先生の奥様が話してくださった中で印象的だったのは、自分も元々そうではなかったという言葉でした。
若い頃の自分はお金持ちになりたかったし、海外にも行きたかった、でも神様に触れられて、神様の恵みを受けたから、神様の恵みを流す、だから田舎でも関係ない。自分はこのように神様に用いられる器ではなかったけれども、神様はこのように用いてくださっているのだというお話が印象的でした。

現地でもたくさんの恵みや奇跡と思われることを体験しましたが、帰りの飛行機でも神様の奇跡を体験しました。雨のため飛行機が飛ぶか分からず、私たちの日本への帰りもどうなるかわからないような状況になりました。けれども多くの方の祈りに支えられて、直前の飛行機は運行キャンセルとなったにも関わらず、私たちの飛行機は無事に飛び、奇跡的に予定通り戻ってくることができました。神様が、普段の生活の中では気づきにくい、普通の流れの中で起こっていた一つ一つが、偶然ではなく、神の守りの中にあったことを特別に教えてくださったのだと感じました。

特別に祈られ、特別に出ていく時に神様もまた働いてくださることを体験できたのは恵みでした。同じ神様が共にいてくださることを忘れずに、もっと期待していきたいと思わされました。最初から最後まで守ってくださった神様に感謝すると共に、このために祈り、また様々な形で応援してくださった皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

# 「世界が広がったアウトリーチ！」

学院生　ロケ・ジョシュ・アキラ（輝）

今回は僕にとって最初で最後の海外アウトリーチでした。去年の７月から２学期の間、様々な費用 のために休学の期間を頂き、今年の１学期に復帰しました。学期が始まる少し前に海外アウトリー チに行くことが決定し、準備不足や、経済的に全く予想していなかったことから大きな不安に駆 られました。しかし、タイに行くための旅費や、その他の必要なものが、様々な方の献金や支援 によってカバーされたと聞き、これは神様の旅で、安心してしっかり向き合っていく必要があると 目覚めさせられました。

今回、僕の奉仕はとても少なかったのですが、記録係というアウトリーチ全体を写真や動画など に収めて記録する立場に任命されました。その中で、僕は生徒全員の証、スキット、チルミニ、メッセージなどを撮っていく中で、神様が表に立っているものを祝福し、力強く立てていて、難 民の方々や子供達にダイレクトに福音を伝えていることを強く受け取りました。時間が経つにつれ て雰囲気が良くなっていき、僕たちを受け入れてくれる様子もカメラを通してとても感じられまし た。活動期間５日の中、初日のグレース神学校は、生徒全員がとてもよく訓練されていて、学院のサ ポートの中のびのびと学んでいるように感じられました。同時にとても実践的で授業が終わっ てから、ほぼ毎日、難民の方々が住んでる地域に出向き、直接伝道している姿に刺激を受けました。僕より若い子から４０代近い方まで幅広い年齢の方が仕えていて、僕達日本人も、以前より もっと真剣に向き合っていく必要があると感じました。

２日目はメーソートグレース教会の姉妹教会であるメパ教会に行きました。そこには４０人ほどの 子供達がいてみんな純粋に神様を見て賛美し、ゲームしている姿にとても感動しました。現地の 子供達との交わりがメパ教会が初だったのでとても緊張しましたが、根っこの部分は、やはり日 本と同じで、愛を欲している存在でした。３日目の日曜礼拝はメーソートグレースチャーチで受け、そこで、僕達生徒の賛美、紀子先生の証、利先生 のメッセージを通して僕達日本人も神様に愛されていて、用いられ、メーソートにいると言うこ とを強く伝えることができました。別の国や違う環境の中においても人間的な悩みや、神様から 示された召し、受けた奇跡はとても似ていて、そこも励ましになりました。

４日目はメカサの難民学校に訪問しました。中高生も合わせて３７０人の大きな学校で、そ

こで僕は 証をさせて頂きました。とても雰囲気が明るく、みんな元気でハキハキしていましたが、やはり 根元には寂しさや、苦しさがあることも感じられました。しかし、ハグやハイタッチなどをすると 表情が柔らかくなり、まだ残っていた悲しみなどがすこし軽くなったように見えました。

５日目は、メーソートグレースチャーチ枝教会のソーオー教会に訪問しました。泊まっていたホテルから車で３０分から４０分ほどのところにあり、そこにも６０人位の子供達がいて、難民学校と同じよ うな施設が教会の裏に建てられており、メーソートよりもかなり貧しい地域でした。そこでも同 じように、チルミニ、リディーマーなどをしたのですが、記録班として動画を撮影している中で、全体の奉仕の中で、神様が今までの数日よりももっと強く働かれていることを感じました。リディーマーのクオリティがとても高まっていて、５日間、何度も見ているはずだったのに、いまま でとは違った味のあるものになっていて、僕も神様の祝福で満たされました。

この９日間、体調が完全に守られ、余裕が生まれ、神様が僕たちに示したいこと、最終日のメーソー トからタイに向かう飛行機も大雨の影響で飛ばないと予想されていて、前の便もキャンセルにされ ていましたが、大雨の中飛行機が飛び、無事にスワンナプーム空港に到着できたことが、神様が この旅にずっといてくださったんだという再認識に繋がりました。今回のアウトリーチのためにとりなし祈ってくださった方、教会、先生方の皆様に感謝します。そして、タイを通して僕に新たな視野を広げてくださった CFNJ、この旅全てを企画して、全てを 意味のあるものとして遣わしてくださった神様に感謝します！

---

# 「私の助けは主から来る！」

実習長　岩村　一義

ハレルヤ主の御名をほめたたえます！タイアウトリーチに向けてのご支援、とりなし祈ってくださった方々、心から感謝いたします。何より主によって守られ、無事にアウトリーチを終えることができたこと感謝します。

このアウトリーチでは、国軍による弾圧でミャンマーからタイメーソートへと逃れてきた出稼ぎ労働者、難民の方々の子供たちと触れ合う機会を与えられました。

子供達や女性は特に弱い立場に置かれており、人身売買、虐待の目的に、ビザなしの難民が多く、警察をもその現状を知り、身柄の安全の為に（ビザがなければ不法滞在で罰金が課せられる）賄賂を求める始末。食糧、医療、教育も十分に受けられません。ミャンマーの子供たちは何を見て生きているのだろう。何

を求めて生きるのだろう。私自身、いつも幼少期の時に思っていたことでした。現地で会った子供達の目は私たちを見て輝いていました。しかしどこか寂しい表情をしていました。難民キャンプに暮らす方の家をお借りして子供ミニストリーをしたメクでの子供集会の終わりに一人の子供が私に飛びついてハグをしてくれました。しばらくしっかりとハグをしました。

言葉は通じないけれども、表情、体で表せるもの、私たちは子供たちの物質的なものは何も満たせないけれども、神様の愛で満たされるものがあります。子供たちの心は愛に飢え乾いているように感じました。しかしその目には希望があるようでした。私自身が子供達の純粋な主を求める姿に励まされました。私たちはあらゆるときに、主をほめたたえる。私の口には、いつも主への賛美があるように、メカサ難民学校での賛美は子供達との一体感があり、激しく踊りながら熱く主をほめたたえました。本当に恵まれた一時でした。

そしてメカサ難民学校、メパ教会、グレース神学校や様々な子供集会のできる教育の場所、このような働きは子供達、その地域の人々、国を愛し、主に立てられた開拓者、牧師夫妻、献身者、ボランテイアスタッフの方々の献身的に仕える姿があってのことだと感じました。苦難な状況、環境の中に流されるのではなく、信仰、希望、愛を持って仕える種を植え、１０年という短期間で成長されている様子が見られました。更にタイの地でキリストの体が建て上げ続けられていくことを祈ります。

そして CFNJ 学院チームで一人も欠けることなくタイに来られたことを感謝します。全員で行けないかもという思いやチケットトラブル、天候トラブルなど思い煩いそうなこともありましたが、神様はこのアウトリーチの全ての必要を満たしてくださり、大雨から晴れへと天候までにも働いてくださいました。ハレルヤ！

最後に、23 日最終日の刑務所伝道がキャンセルになり、急遽子供伝道の為に集会所へ向かう道中でした。後ろ側に見えたのはミャンマーの国境線上にある大きなダウナ山脈が見え、複数の鳥たちが飛んできました。アウトリーチのチーム T シャツと全く同じ風景でした。「私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」（詩篇１２１篇１節・２節）

全て神様がご計画されていたことでした。ミャンマーの人々はいつもこの山を見て故郷を思い出していると思います。辛い過去を思い出すかもしれません。しかしその目には希望があり、心は平安で落ち着いていて、いつも感謝の心があるように見えました。

神様は今も難民の人々、心の貧しい人々をわざわいから守り、助け出しておられます。僕自身もミャンマーの子供達のように主に望みをおいて、主を求め続けていきたいと思います。この夏、地元の富山に帰省するのは前向きではありませんでしたが、富山の立山連峰を眺めに行きたいと思います。

# 「初めてのアウトリーチ！」

学院生　中澤 美樹

ハレルヤ！主の御名をほめたたえます。はじめから終わりまですべてが、私たちの思いよりもはるかに高い主の思いのままに実現したアウトリーチとなりました。日本で日々とりなしてくださった方々、実況報告に応答しリアルタイムで祈ってくださった方々、本当に感謝します。祈りの覆いを感じました。

アウトリーチ前、礼拝する中で、もっと主の御心、その思いに近づき受け取りたいという思いが与えられました。誰かから溢れたものを受け取るのも素晴らしいけれど、神様の思いそのものを純なまま受け取ることができる喜びを知れるからです。（はるかに高い主の思いを受け取ったその人は、状況がどうであれ一歩前に踏み出す必然におかれるとしても）愛する主の思いをはじめに受け取ることができることが、どれほどの喜びか、そのことを主が教えてくださいました。また、アウトリーチについて「どんな逆境もご自身の栄光にあらわすものに変える」、「学生一人一人に見せたい景色がある」とも、主は語ってくださっていました。実際、アウトリーチでは様々なことを主が見せ、体験させてくださいました。

●行った先々で子どもたちがイエス様を受け入れたこと。宣教の喜び！
●私たちが行く前から長きにわたり、未信者たちとの関係を築き、種をまき続けた現地の神学生、教会の方々の献身！
●子ども集会の地域に着いた瞬間と、子どもたちに手をおいて祈った時に、主の思いが注がれたこと。（徐々に疲れ、仕えることに心が無感動になりかけていた時、立つのもやっとなほど主のあわれみの心が注がれました。）
●スコールが福音を伝える直前に止んだこと。（マイクがなく、声が雨音でかき消されるので、スコールが止まなければ福音メッセージは届けることができませんでした。）
●素晴らしい仲間たちの証！
●チームワーク！（一人ではきっと何一つできなかったですが、主がチームによって実現させてくださいました。）
●最後の子ども集会への道中で見た、山の上を飛ぶ鳥たちの景色。（アウトリーチTシャツのデザインそのものでした。刑務所伝道がキャンセルされなければ向かうことのなかった集会に行く途中でした。アウトリーチが始まる前から主がすべてを備えられ、行く場所・行かない場所含め「わたしがすべてを導いた」と主が語ってくださったようでした。）
●行きも帰りもチケットや飛行機欠航のトラブルがありましたが、行くにも帰るにもとこしえまでも守られると約束された主が、ご栄光をあらわしてくださったこと。
●おいしいタイとミャンマー料理。（最高！）

今回の収穫は、現地で主に仕え続けた方々の労苦あってのことでした。教会の中だけに留まっていた私にとって働きに出ていくのははじめてのことでしたが、だからこそ、今回主が宣教の一番良い面を見せてくださったように感じました。宣教という教会のもう一つの大事な側面と、出ていく喜びを教えてもらいました。それと同時に、主が「もう良い」と語られるまで一つのところで仕え続けたい理想がありつつ、現地の方々の献身のうちに

見たそのリアルさに姿勢が正される思いでした。「どうか貧しい人々が食べて満ち足り、主を求める人々が主を賛美しますように。—あなたがたの心がいつまでも生きるように—地の果てのすべての者が思い起こし、主に帰って来ますように。国々のあらゆる部族もあなたの御前にひれ伏しますように。」（詩篇２２篇２６節～２７節）この箇所を読んだ時、ミャンマーの人達、そして地のすべての人々に対するイエス様の思いがあるように思いました。主の思いを受け取り、それに沿って働く者になりたいと願います。

---

# 「神の御手の中で！」

学院生　タヒラ デボラ

ハレルヤ！みんなで一緒にアウトリーチ参加できたことに心から主に感謝してます。お祈りや献金などで支えてくれた方々に心から感謝してます。私の初めての海外旅行で、とても楽しみにしてました。でも、行く一週間前に色んなことが起きたため、ずっと部屋でこもって、もうアウトリーチ行くのもやめようと思ってました。でも、神様に行きなさいと言われ、言われたことに従って行きました。アウトリーチ行けて本当に良かったです。

アウトリーチ行く一週間前に色んなことがあったため、ちょっと心配していましたけど、小さいことから大きいことまで神様は守って、祝福してくれました。アウトリーチ行く前に、パスポートの有効期限が切れていて、私はブラジル人であるためブラジルから色んな書類が必要でした。でもその書類を手に入れるためには、１８０日以上かかると言われました。でも、主のめぐみより６３日で手に入れることができ、パスポートを更新することができました。そして参加費もなかったです。でも主のめぐみにより、色んな人たちが祝福の献金やお祈りしてくれました。他にも色んなことが起きたんですが、全てにおいて神様の御手が見ることができました。

今回のアウトリーチでは、タイのアウトリーチではありますが、ミャンマーから逃れてきた方々のためでした。子供たちへの奉仕が多かったです。私たちは色んな子供たちのところへ導かれました。一人一人心の中に傷やトラウマをもってて、それでもキラキラした目・笑顔で迎えてくれました。行く何ヶ月

の中に傷やトラウマをもってて、それでもキラキラした目・笑顔で迎えてくれました。行く何ヶ月か前から、練習してきたスキットや準備してきた色んな遊びなどを、子供たちに見せたり子供たちと一緒に遊べることができてとても嬉しかったです。最初は思ってたよりも小さい子供がいっぱいいて、私たちが伝えたかったことを理解してくれるのかが不安でしたけど、みんな理解してくれててとても嬉しいかったです。私も、初めて色んな人の前で証ができて、最初は不安でしたけど、証は誰かを神様のもとに導くことが出来るって言われてできました。メッセージをしたあとに学生みんなで子供たちに手をおいてお祈りができてとても良かったです。近くで本当にイエス様を受け入れたい気持ち・飢え乾いている気持ちを強く感じれました。自分の胸に手を当てながら泣いてイエス様を受け入れる祈りをしてた子もいました。そして最後にみんなで君は愛されるため生まれたを歌いながらみんなの方を見て歌ってすごい自分もその場で神様の愛が広まってると強く感じました。終わった時に色んな子供たちがハグしにきて心が溶けてました。子供たちのイベントをしてとても学ぶことができて、子供たちの奉仕に対する私の気持ちが大きくなり、そしてとても燃えてます。

現地でたくさん学ぶことができて、色んな奇跡や主のめぐみを見ることができたんですけど、帰りに雨がたくさん降ってたため、飛行機が飛ぶかわからない状況でした。直前の飛行機は運行キャンセルとなっていました。バスで行くと８時間くらいかかると言われており、次の飛行機には間に合わないのもありそしてお金がもっとかかるってゆうことがあって、私は２年前くらいまでには、パニック発作をよく起こしてました、その時にまたパニック発作が起こりはじめようとしてて、祈り始めたんですけど、もっと発作が強くなっていく感じでした。その時、賛美を聞き始めて感謝の祈りをし始めて、神様の素晴らしさを歌い初めて、一人で発作を止めることができました。初めて一人で落ち着くことができて、本当に神様の御手を感じました。私はパニック発作で救急車で運ばれたこともあり、一人ではなかなか落ち着くことができなかったです。落ち着いたあとに神様が私の心の中で「私はあなたをがっかりさせたことあるのか」って聞かれて、いいえないです。と答えて「私を信じなさい」と言われて私は感謝の祈りをしました。自分の力では何もできない、神様を信じる、神様はがっかりさせないってゆうことを学びました。それは知っていたんですけど、それを経験できて、神様は全てある目的で何かを私たちの中に付け足すためにしてくださることを強く感じました。

このアウトリーチでは、色んなことを学び色んなことを経験して、色んな奇跡を生きて、本当に素晴らしかったです。自分の霊的人生でとても必要だったことだと感じました。兄妹たち全員の仲がもっと深まったと感じました。本当に素晴らしい主に心から感謝してます。

# 「神の愛あふれるタイの旅！」

学院生　宮内 仰

証できる恵み、またアウトリーチに全員で参加出来たことを感謝します！

私にとって初めての海外であり、初めてのアウトリーチでした。飛行機が大の苦手だったので、まず１番の難関は飛行機でした。京都から北海道の２時間しか経験した事がなかったのですが、７時間を超えるフライトであるアウトリーチ中、不思議と不安や恐怖が襲ってくることはありませんでした。神様の守りの中で安息することを受け取り、癒しを体験する旅となりました。主に感謝します。

また、今回のアウトリーチで、私はチルドレンミニストリーのメッセージを担当させて頂きました。私は子どもに対しての思いがあり、アウトリーチで子どもに関わらせて頂けることは私にとって本当に恵みでした。メッセージをするまでは緊張でどうにかなりそうでしたが、目的地に着いて子どもたちを見ると、みんな目をキラキラ輝かせてこちらを見ていました。メッセージを始めると、真剣に神様の言葉を受け取ろうとしている子どもたちの姿勢に、飢え渇きを感じて、私も神様に対して常に飢え渇くことの重要さを学びました。だんだんと緊張はどこかに消え、喜びが溢れてきました。受け入れの祈りをする時には、神様の臨在がその会場全体に満ちていることを感じて、タイの地を神様が本当に祝福してくださっていることを全身で感じることが出来て、神様の偉大さが現された時間となりました。

もう１つ感謝だったことは、私が毎晩、メッセージの準備をする中で、自分の弱さのゆえに、だんだん疲れと共に心も疲弊していました。その時に、同室になったデボラちゃんと話す時間が与えられて、心にあった重荷が本当に取り去られて、平安で満たされました。彼女の口から出る一つ一つの言葉を神様は用いてくださって、私を慰め、励まし、また強めてくださいました。私の心はかなり厳しい状態でしたが、そのことを通して、デボラちゃんとの関係が深まり、また神様の力強さを知ることができました。神様が全てを益に変えてくださったことを感謝します。

神様のすばらしく麗しい、偉大な御名を心からほめたたえます！現地で、また祈りで、支えてくださった全ての方々に感謝致します。

# 「実を結ぶ地」

学院生　木藤 穣

ハレルヤ、主の御名を讃えます。９日間の日程が全て守られたことに感謝します。また祈りによって支えてくださった方々にも感謝します。自分にとって今回のアウトリーチは、実が結ばれる喜びにあずかれたことでした。タイのアウトリーチではありますが、実際はミャンマーから逃れてきている難民の方々に対するものでした。そして主に子どもたちへのものでした。

準備の時から自分たちの賛美やスキット、証が伝わるのだろうかという不安がずっとありました。しかし、いざ奉仕が始まってみたら子どもたちは一緒に喜んで賛美をしてくれ、またスキットや証にも目や耳を傾けて真剣に受け取ってくれていました。本当に神様は国を越えて働かれる方であることを実際に感じることができ、また神様への飢え渇きはどこも同じで、場所が違っていても同じものを見ているのだと改めて思わされました。
ミャンマーの方々はチームを温かく歓迎してくださり、奉仕に来たはずなのに自分たちの方が多くのものを受け取っているようでした。そのような温かい愛を受ける中で自然と緊張もほぐされていきました。自分が何かをするのではなく、一緒に神様を賛美し、礼拝するという、言葉は違うけれど同じ時を持つことができたことに感謝します。

今回のアウトリーチで奉仕させていただいたところの多くは教会が難民学校も並行して行なっているところでした。たくさんの子どもたちがいて、その数はどんどん増えているとのことでした。両親と離れて暮らす子どもたちもおり、子どもたちの心には喜びの中に、愛に飢えているところが見えました。自分たちがどれだけそこに触れることができたかはわかりませんが、多くの子どもたちに神様が働いてくださったのを見ることができました。また教会のスタッフ、神学生を中心に毎週伝道に行っているとのことでした。ただ伝道だけでなく村の必要性にも援助をしたり、教会が地域に根付いているのを感じました。驚いたのが、今回奉仕した場所のうちで未信者の方が場所を提供してくださっていたところがあったことでした。地域との関係性というところで日本でも見習うべきところだと思いました。「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――主の御告げ――それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」（エレミヤ書２９章１１節）

タイという祖国とは離れた地においても確かな種が蒔かれており、またすでに成長を続けていました。今回のアウトリーチでは私たちはその蒔かれた一部の実の結びを見ることができました。そしてその喜びにともにあずかれたことに感謝します！

CFNJ Thailand MaeSot Outreach Report 2024

2024年7月17日（水）～25日（木）

# タイ・メーソート アウトリーチ全行程

鍛冶川 紀子 記

## ●7月17日（水）

■早朝３時起きして、４時４０分に、後藤さんとソジョンさんの運転で千歳空港に向かって出発。スタッフのめぐみさんと雄基君、金先生が見送ってくださった。７時２５分千歳発　成田空港には９時過ぎに到着。早めにバンコク行きの手続きを済ませた後、ランチは空港内の Japanese food の店で済ませる。（ここが最悪：値段が高過ぎて、チームの予算内で食べることのできるメニューがない！先行きが少し不安になる出だし）今回は格安航空券の為、機内食は無し。（航空券を格安で確保するために、ノブ兄弟が尽力してくれました。感謝！）１２時１０分成田発、約７時間のフライトで現地時間１７時にバンコクスワンナ空港に到着。空港内で初タイ料理の夕食を味わう。ピリ辛気味。その後シャトルバスでドンムアン空港に移動。「ドンムアンホテル」に到着したのは午後１０時ころ。早朝からの長い移動に耐えた私たちは、早々と眠りにつきました。一日目終了。

## ●7月18日（木）

■この日は各自デボーションを済ませ、朝８時にシンプルな朝食を済ませる。その後ホテルをチェックアウトしてドンムアン空港へ。空港内でランチを済ませた後、飛行機で今回の目的地メーソートに向かう。空港までメーソートグレースチャーチのサインドウ牧師とスタッフが出迎えて下さり、２台の車で「P.K. ハウスホテル」に到着。思った以上に広くて快適な部屋にみんな大喜び。ホテル近くの中華レストランまで徒歩で出かけ、みんなで夕食。翌日からの奉仕に備えて休む。

## ●7月19日（金）

■この日から仁さんのお部屋に毎朝７時に集合してデボーションを開始。みんなで賛美した後、まずは主人がみ言葉を分かち合い、この日の奉仕と予定を確認し互いに祈り合う。朝８時にホテルの朝食、内容は炒飯と目玉焼き、ウインナー、スープ、パンやコーヒーなどの飲み物もあって満足。１泊一人１４００円の格安ホテルなのにその内容に大満足。（日替わりでおかゆもあっ

て満足。１泊一人１４００円の格安ホテルなのにその内容に大満足。（日替わりでおかゆもあった）午前１０時、お迎えの車に乗って、神学校に到着。立派な建物と施設に驚く。１１時から１時間をいただいて、カズ君のリードで覚えてきたミャンマー語の賛美をするが、現地の神学生たちの力強い賛美に圧倒される。この日の証担当はデボラ姉妹、アウトリーチに参加するまでに味わった神の備えと奇跡を証する。スキット・リデイーマーのあとは、ノブが証と力強いショートメッセージで５０名位の神学生たちを励ます。この神学校の監督と教えを担当するのは、サインドウ牧師の奥様。スタッフ心づくしのランチをいただきながら、楽しい交わりの時を持つ。その後、学生たちは神学校内部を見学。午後は翌日から始まる子供伝道のために様々なグッズやプレゼントのお菓子を買い求め、ホテルに戻って全員で協力して、４００個くらいの袋詰め作業をする。少し休んでから夕食は又、ホテル近くのレストラン迄歩き、今度は本格的タイ料理を味わう。お値段は高め、中華料理屋さんの３倍くらい、そして辛い！しかし学生たち（特に美樹姉妹）は大喜び！！

## ●7月20日（土）

■朝７時に集合してデボーションを開始。みんなで賛美した後、ノブがみ言葉を分かち合い、この日の奉仕と予定を確認し互いに祈り合う。この日から怒涛のチルミニが始まっていく。午前はメパ教会で、５０人くらいの難民の子供たちにミニストリー。内容はミャンマー語で、すべてに感謝しよう（アヤーヤーナイチェズドーゴー）を、子供たちも一緒に振付をしながら踊り歌う。デボラ姉妹振付のラララジョイジョイを、これもみんなで覚えて踊り歌う。そして楽しいゲームの時間、チームに分かれて、ピンポン玉を落とさず運ぶゲームやマッスルゲームで楽しむ。スキット・リデイーマーの後は仰姉妹がスキットの説明を含めながら福音のメッセージを大胆に語り、子供たちを救いに招き祈る。最後は君は愛されるために生まれた、をミャンマー語で賛美し、プレゼントを配り、全員のために祈り、スキンシップの時も持つ。子供たちが帰った後は、メパ教会の牧師夫妻の祈りの課題を聞いて、みんなで子供たちの為、牧師ファミリーのため、とりなし祈る時を持つ。午後はベルリと言う場所に行って野外伝道集会を行う。この場所は開拓中で建物もなく、草ぼうぼうの野原を乗り越えて、かろうじて雨をしのげる空き地にござを敷き詰め、献身的スタッフや神学生が、子供たちを車で送迎しつつ、近くにある未信者の村人の好意でトイレなどを使わせてもらいながら、雨の中チルミニを開始。いつものプログラムを進めようとしたころから、スコールのような大雨が降りだし、賛美の声もゲームを導く声も、マイクも無いこのような場所では届かず、苦心惨憺していたため、証もカットして、言葉がなくても伝わるスキット・リデイーマーを上演、それが終わっていよいよ仰姉妹のメッセージの時間になり、どうなることかと思い始めた時、奇跡が！それまで、ざーざーと、ものすごい音で降り続けていた雨が一気にサーっと上がって、静寂の時が訪れたのです。その静けさの中で、仰姉妹は存分に福音を語り告げることが出来たのです。

勿論そこに来た子供たちも、未信者の大人もみんな招きに応えて、イエス様を受け入れるお祈りをしていました。ハレルヤ！主は素晴らしい！

## ●7月21日（日）

■この日は中心となるメーソートグレース教会での聖日礼拝（２００人規模）で奉仕させていただきました。姉妹全員は日本から持参した浴衣姿に着替えて出動、まずは日本のさくら、さくらを日本語とミャンマー語で歌いながら踊り、谷川の流れを手話をつけながらこれも日本語とミャンマー語で賛美しました。その後、学生たちがスキットの準備をする間に私（紀子）が、救いと癒しの証をさせていただきました。昨年大腸がんの手術をした８３歳の私が、今元気にメーソートに来て主の憐みと恵みを証する姿を見て、多くの婦人たちが、励まされたと、礼拝後喜んで私のそばに駆け寄って写真を所望。確かな手ごたえを感じるひと時でした。スキットの後のメッセージは、学院長の主人が担当。ダビデの生涯から、あらゆる苦難の時にあっても主をほめたたえることの大切さを伝えてくれました。教会内はクーラーもなく蒸し暑く、私は軽い熱中症状態になりかけましたが、ランチタイムには 冷房の効いた部屋に通され一息つくことができました。感謝します。さてこの日は午前中の礼拝奉仕の他に、夜にメクと言う地域で、又しても子供伝道がありました。私は午前中の疲れもあり夜の集会には参加せずホテルで休ませていただきましたが、あとからの報告で、この集いは今までで一番狭いスペースでミニストリーをしなくてはならず、不可能に思えるほどの狭いスペースにも拘わらず、すべてのプログラムをこなし、激しい動きを伴うスキットも無事やることが出来たとのことでした。その日の夕食はどこかで外食の予定でしたが、その貧しい地域の方々が心を込めて作ってくれたお料理は、それまでで一番おいしくて、思わずお代わりを要求してしまったとか。連日の奉仕で疲れ果てているはずの学生たちも、元気に喜びに満たされてホテルに戻ってきました。

## ●7月22日（月）

■続く月曜日の午前中も又、メカサ地域の難民学校での子供伝道でした。この場所には今までで最大の３００人を超える子供たちと、それをお世話する多くの働き人が暮らしていました。整然と集まる子供たちの姿を見て、よく訓練されているなあと驚きました。あまりの数の多さに用意したプレゼントも足りなくなり、もう一度買い足して準備しなければなりませんでした。こんなに大勢の子供たちの生活の面倒を見ながら、教え導いておられる方々の愛の労苦を覚えるとき、感動で胸がいっぱいになりました。生き生

きと輝くような眼をした子供たちの心の内側には、深い悲しみや愛の飢え渇きを見ることが出来ました。思わずそこにいる全員を抱きしめたくなる衝動に駆られましたが、とても一人で３００人を引き寄せることはできません。気が付くと我々チームのメンバー全員が、子供たちに囲まれ一人一人が霊的お父さんとお母さんのように、子供達に触れ、笑顔で抱きしめ、祝福を祈る姿がありました。子供たちを見送った後も私達の心には、主の愛とさわやかな癒しと慰めの風が吹いてくるような充実した感覚を味わうひと時でした。

## ●7月23日（火）

■さて今日はいよいよ、奉仕の最終日、予定では刑務所伝道の日でした。私はひそかにこの日を楽しみにしていて、できればここでも自分の人生の証をして福音を伝えたいと願っていたのですが、急遽方向性が変わり、刑務所伝道の道は閉ざされました。何故？と思う間もなくすぐに主の御心が分かりました。その地域を治めているサインドウ牧師の心には、更に別の難民学校に行って、われわれにミニストリーをしてほしいという願いがあり、それこそまさに主が願っておられることだと思いいたりました。主はこれほどまでに子供たちを愛しておられるのだ。これこそ、私達がメーソートに遣わされた理由なんだ。主の愛はいと小さきものの上にこそ、熱く注がれているんだなあとわかりました。主のみ言葉が響いてきました。「これらのいと小さきものたちにしたことは、わたしにしたことなんだよ」と。午後は私達チームのために祈り捧げて下さった方々への、お土産探しに奔走しましたが、メーソートには限られたお店しかなくて、思ったような買い物はできませんでしたが、ひとまず目的を果たして翌日帰途につくための荷物の整理のために早めに宿に戻りました。

## ●7月24日（水）

■メーソート空港発は夕方の為、私たちはホテルのチェックアウトを１１時半にし、荷物を一旦ホテルに預けて、ランチと買い物のために滞在中何度も通ったスーパー、ロビンソンに行き、時間を過ごしました。そして午後三時過ぎ、メーソート空港に着くと、なにやら不穏な空気な流れ、何事かと思っていると、雨の為予定の飛行機が飛ばない可能性があると伝えられました。ここまで何もかも順調にきたのになぜ今、こんなことが起こるのか？しばらくはその訳が分かりませんでした。しかももしこの便が飛ばなくなっても、そのチケットの料金は払い戻しはで

きないというのです。サインドウ牧師と通訳の仁さんとノブが必死に問い合わせ、交渉しても航空関係者は、ルールだからの一点張りで聞く耳を持ちません。バンコクから成田行きの飛行機に遅れずにバンコクに行くためには、自分たちで高速バスをチャーターしなければならず、しかもそのためには４０万近くのお金がかかるとのこと。このアウトリーチの会計を受け持つ私の財布には、もうそのような大金は残っていませんでした。飛ぶことを祈るしかない！いや祈りこそがこの状況を変える唯一の道だと思いました。すぐに心あるとりなしグループの方々にも緊急の祈りの課題を出しました。そしてチーム全員はその空港内で一つとなり手をつなぎ、心をあわせて祈ったのです。とりあえず荷物を積み込み、出発時間になっても飛ぶのか飛ばないのか何のアナウンスも無い状態の中少し時間が過ぎて突然搭乗ゲートが開き搭乗手続きが始まったのです、一旦外に出て大雨の中大きな傘をさして飛行機迄一人ひとり歩いて乗り込みました。このようにして奇跡的に飛行機が飛ぶことになり、私たちはメーソート空港からドンムアン空港へと飛び立つことが出来たのです。そしてこのアウトリーチ期間中通訳やすべての奉仕をしてくださった仁さんこと、伊藤宣教師は更なる宣教地ミャンマーの地へ赴くためにチームとはここでお別れとなりました。仁さんありがとう。ミャンマーでの働きの祝福をお祈りします。

## ●7月25日（木）

■９名となったチームは その後ドンムアン空港からバンコクのスワンナ空港へ、そして長い、長い、待ち時間の後、２５日午前２時２５分発成田空港着日本時間午前１０時５５分着の便に乗り込み無事日本に帰ることが出来ました。（成田の蒸し風呂のような暑さに驚く）成田に着いたチームは お約束の日本食レストランでおいしい和食をいただきそのあとは、コーヒーやドリンクを楽しみながら、恵みの分かち合いの時を過ごしたあと、それぞれの地に向かって帰途につきました。９日間、すべてを守り導いて下さった主に感謝と賛美をお捧げします。

# CFNJ Thailand MaeSot Outreach photo

# ＜タイ・メーソートの為にお祈りください！＞

1. 20万とも30万ともいわれるミャンマー難民の方々のためにお祈りください。祖国を離れ、タイの地の片隅で、ひっそりと生きる人々の、心と体が、守られ、すべての必要が満たされるように。

2. 中心となる教会、「メーソートグレースチャーチ」の主任牧師「サイン ドウ夫妻」を始 め、 そこで献身的に働くスタッフや、 働き人の霊、 魂、 体が生完に守られ、 喜んで仕える霊で満たされ続けるように。

3. 神学校で学ぶ生徒たちが、良き学びと訓練を受けて、主の働き人としてあらゆるところに仕わされ、 良き実を結んでいくように。

4. 多くの子供たちが、 主の愛を知り、 心の傷がいやされ、 自分のアイデンテテイを取り戻し、 やがて主の弟子となっていくように。

5. ミャンマーの軍事政権が終わりを告げ、 主による真の平和がもたらされ、 やがて難民の彼らが懐かしい祖国へ戻ることが出来るように。

6. 難民学校のすべての経済的必要が常に十分満たされ、彼らの生活を指導し、聖書に基づく教育を施す教師スタッフの生活も十分に満たされるように。

7. 開拓中の村々の教会に会堂が与えられ、 そこにも子供たちの住むスペースが備えられるように。 そして、 それぞれの場所にふさわしい働き人が備えられるように。

最後に今回のアウトリーチに参加した CFNIJ の学生たちが、 今後も世界に目を向け、 主の御心ならどこへでも出て行って、 福音を伝える者となっていくことが出来るようにお祈りください！

# Special Thanks!

「メーソートグレースチャーチ」の

「サインドゥ牧師夫妻」と「働き人」の皆様！

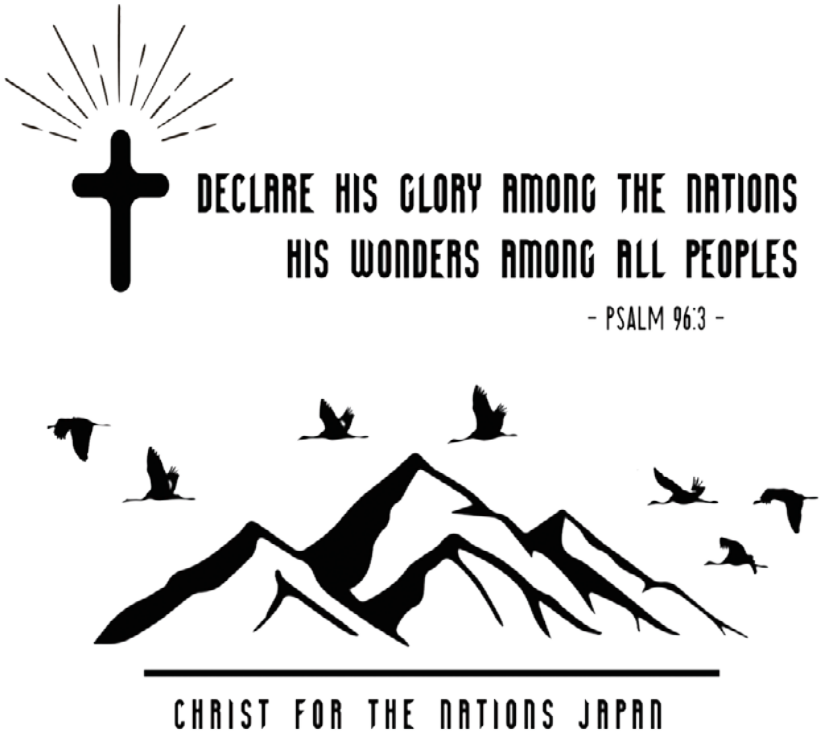
日本で「とりなし」、「祈り」、

「献金を捧げて下さった」皆様！

そして、何よりも、

すべてを導いて下さったイエス様に！

心からの感謝を捧げます！




宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校

**CFNJ聖書学院**

〒061-3216 北海道石狩市花川北６条５丁目 157 TEL (0133) 74-1341

Eメール／ office@cfnj.com 学院長 鍛冶川利文